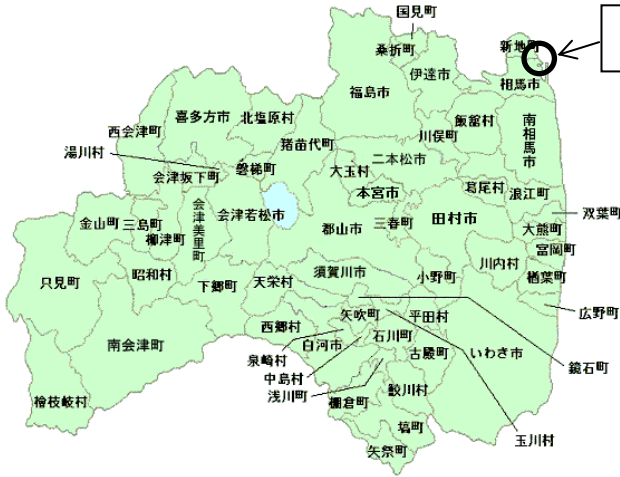


被災地派遣レポート<第59回>

港湾局臨海開発部開発整備課 羽沢幸司さん



相馬港

1 はじめに

平成 24 年 7 月から 8 月までの 2 ヶ月間、福島県相馬港湾建設事務所に派遣されたので、その業務内容と生活環境について報告する。

2 相馬港概要

相馬港は、福島県北部にあり、相馬市と新地町の境に位置している。石炭火力発電所の石炭、工業原材料、金属・土木資材などの貨物を主に取扱っている重要港湾である。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において、震度 6 強～6 弱の地震動により、全体的に 50cm 程度の地盤沈下が生じ、また、部分的に液状化現象が発生した。地震発生約 1 時間後、9.3m 以上の津波が港全体を飲み込み、防波堤が破損し、多くの建物が破壊された。さらに、引き波時に岸壁が倒壊するなど、大きな被害を受けた。



鋼矢板岸壁の倒壊



写真手前が復旧前で、50cm 沈下し、50cm 海側へ傾いている
写真奥側はコンクリートを 1m 打設して完了

3 相馬港の復旧状況

平成 23 年度は災害査定を受け、工事の発注、並行して詳細設計を行い、詳細設計が固まり次第、順次工事に着手した。平成 24 年度に入り、着工箇所が着実に増加してきている。実際に現場に入って初めて被災の全容がわかるところもあり、現況に応じた変更を行い、適切に工事を進めている。港湾施設は、平成 25 年度中には概ね復旧工事が終わる見込みである。しかし、漁港施設、海岸施設は、いまだ着工していない施設も多く、復旧はまだ先になる見込みである。

復旧は、基本的には元に戻すというのが前提であるが、現場では、将来使いやすい、維持管理しやすい施設となるように意識し、よりよいものを早期に、無駄なく復旧できるように心がけ、施工を進めた。

4 執務環境



旧相馬港湾建設事務所（被災後）



現在の相馬港湾建設事務所の様子

相馬港湾建設事務所は、相馬港、松川浦漁港、釣師浜漁港、真野川漁港外 2 漁港、海岸施設の整備、維持管理を行っている。

東京都港湾局は、地震直後の平成 23 年 5 月より 1 名の職員を派遣、8 月以降 1~4 ヶ月交代で 2 名の職員が継続的に派遣されている。現在、東京都職員は、港湾班に属し、岸壁の復旧を担当している。

事務所が津波で被災し、使用できないため、現在、相馬駅近くにある相馬市所有ビルの 7 階に入居している。少し手狭ではあるが、非常にきれいなところである。相馬港までは約 6km、車で 15 分ほどである。人員は、総勢 37 名で福島県職員 20 名、アルバイト 1 名、任期付職員 5 名、他県からの応援職員 11 名（東京都 2 名、福岡県 2 名、大分県 1 名、京都府 3 名、長崎県 2 名、新潟県 1 名）となっている。水曜日はノー残業デー、休日出勤は基本的にしないこととなっている。福島県職員は、自宅が福島市内にある方が多く、単身赴任の方が多い。平成 23 年度は、深夜まで残業することも多かったようであるが、少し落ち着き、仕事をする時と休み時のメリハリをつけ、健康に留意しつつ、復興を進めていくという状況になってきている。

5 放射能の状況

相馬市の空間線量は、事務所付近で約 0.2 μ シーベルトである。写真にあるような空間線量計は、市内のあちらこちらに設置されており、空間線量を容易に確認することができる。また、相馬市の HP でも公開されているが、海沿いの露天風呂で入るのを避けているとか、洗濯物を外に干すのを避けているといった事例を聞くと、放射能に対する住民ひとりひとりの感じ方に配慮した対応が求められていると感じた。



6 生活環境

住居は、最初の 2 週間がホテル、その後、福島県で借り上げている家具付賃貸アパートに入居していた。住居は、事務所から 1.3km ほどあり、自転車通勤である。バス等の交通手段がないので、雨が降ると通勤するのが大変である。通勤途中にスーパー、コンビニエンスストアがある。2km 圏内には大型家電量販店などもあり、日用品の調達に不便はない。住居の前は高校のグラウンドで、背後には山並みも見え、近くに川もあるなど、自然豊かなよい環境であった。

7 週末の過ごし方

相馬市内は、映画館などの娯楽施設がないので、福島や仙台に出かけたりしていた。相馬から福島市、仙台市ともに約 50km、バスで 1 時間 30 分である。

相馬では、7 月下旬に相馬の野馬追祭があり、約 4 万の観光客が集まった。また、レンタカーを利用して、岩手県、宮城県の被災地視察を行った。昨年 7 月に派遣で行った宮城県南三陸町も訪れてきた。当時は、プレハブの仮設庁舎で、水道もない状態であったが、新庁舎や病院が建設されるなど、復旧が進んでいるように見えた。しかし、町の中心部は、がれきが撤去されているものの復興はまだまだといった状況であった。



出陣式（相馬市内）



メイン会場（南相馬市内）
約 4 万人の観客が集まった

8 派遣を終えて

相馬港の復旧工事が着手し、復旧の現場が動いている状態で業務に携わることができ、よい経験をさせていただいた。2ヶ月間という短い期間ではあったが、港湾局で養ったこれまでの経験を活かして、復旧業務の推進に貢献できたのではないかと思う。

実際に被災した現場を見て、生の声を聞けるという貴重な体験をすることができた。是非、多くの方に経験していただきたいと思う。

派遣中、現地で対応していただいた相馬港湾建設事務所、他府県の派遣職員みなさま、担当業務を進めていただいた係みなさまの協力をいただき、無事終えることができた。今後は、貴重な体験を活かし、東京の防災事業に貢献していきたいと思う。